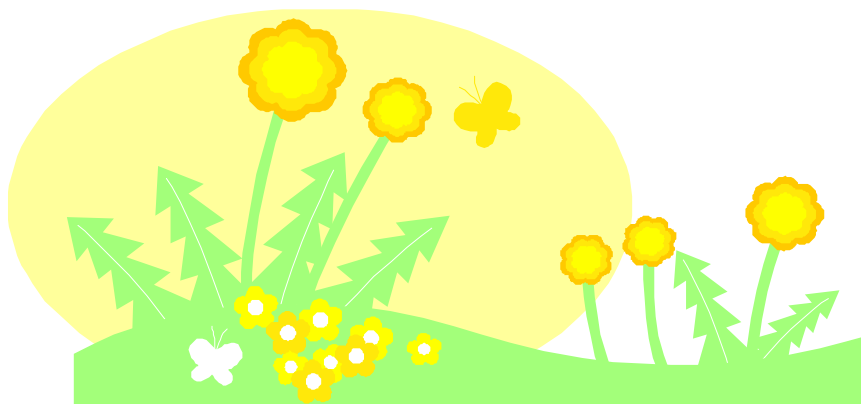




私たち医療スタッフは

- I 入院や抗がん剤治療に対する不安を軽減し、最良の状態で治療が受けられるようにお手伝いします
- II 抗がん剤治療の副作用や苦痛を軽減し、安全に治療を続けることができるようにお手伝いします



Pembro+EC療法

(ペムブロリズマブ+エピルビシン+シクロホスファミド)

さま

四国がんセンター
乳腺外科

主治医／担当医

受け持ち看護師

2025年2月12日 作成
2026年8月3日 改訂

化学療法を受けられる方へ

化学療法とは「抗がん剤を使って病巣や目に見えない
全身のがん細胞を攻撃しておさえる方法」です

点滴は3週間に1回のペースで行います

初回（1クール目）は入院で点滴を行い、2クール目からは
外来で行う予定です

点滴の時間は、1時間以内の予定です

抗がん剤の投与時期や量は、患者さんの体調や検査結果によって
変更されることもあります

※治療前には血液検査を必ず行います

治療前の歯科受診について

◆治療時に起こる口のトラブルを予防し治療が円滑に進むように、
治療開始前の歯科診察を行っています

◆治療前の歯科受診では、以下を行います

- ・レントゲン検査・診察（口腔内の状態を診る）
- ・歯ブラシだけではとれない細菌の除去
- ・適切なセルフケア（歯磨き、うがい）指導



◆通常1～2回の受診で終わることができます

口の中はとても細菌の多い場所です

治療中や治療後にその細菌が悪影響を及ぼすことがあります

特に、治療後の口内炎・肺炎等を防ぐには治療前から口の中を
きれいにし細菌をできるだけ減らしておくことが有効です

排便について

普段からご自身の便の性状を確認し、入院中に排便調整の目安や方法を医療スタッフと一緒に確認しておきましょう

排便回数が4回以上増えたとき、下記の表の6（泥状便）～7（水様便）の排便が続くとき、周期的に腹痛があるときはすぐに医療スタッフに伝えましょう

3日以上排便がない、いきまないと便が出ない、便は毎日出ているがすっきり感がなく腹部膨満感などの症状があるときは、排便回数や性状によって緩下剤を使用します

※排便の状況や下痢・便秘の辛さは人によって違います

※排便のコントロールが難しい場合は看護師と解決方法を相談しましょう

便の性状について（ブリストルスケール）

ブリストルスケールは、便のタイプ（硬さ）を7種類に分類した世界共通の尺度です

自分の便のタイプを知り、排便調整の参考にしましょう

1	コロコロ便		硬くてコロコロの 兔糞状の便
2	硬い便		ソーセージ状であるが 硬い便
3	やや硬い便		表面にひび割れのある ソーセージ状の便
4	普通便		表面がなめらかで柔らかい ソーセージ状、あるいは 蛇のようなとぐろを巻く便
5	やや軟らかい便		はっきりとしたしわのある 柔らかい半分固形の便
6	泥状便		境界がほぐれて、ふにゃふにゃの不定形の 小片便 泥状の便
7	水様便		水様で、固形物を含まない 液体状の便

入院中の生活の注意点



- ◆治療中は免疫力低下のため、感染リスクが高くなります
マスクの着用、手洗い・うがいをしましょう
入院中、手洗いの動画をテレビの無料チャンネルで視聴できます
- ◆口の中は清潔にするように心がけましょう
- ◆排泄を促すために水分をしっかりととりましょう
- ◆膀胱に尿が溜まったままの状態は、腎臓や膀胱に負担がかかり
炎症を起こすことがあります
尿意を感じたら、我慢をしないでトイレに行きましょう
- ◆排尿時に痛みや残尿感がある場合には看護師にお伝えください
- ◆抗がん剤治療開始から治療後2日間ほどは、尿や便などから抗がん剤が排出されます
尿や便に直接触れても健康に直接被害を及ぼすことはありません
ができるだけ周りに広げないように以下のことに注意しましょう
- ・尿がこぼれた場合は、トイレットペーパーできれいに拭き取り、
トイレに流しましょう
2度拭き取ると良いでしょう
- ・トイレの後、フタがある場合は、
フタをして水を2回流しましょう
- ・トイレのあとは石けんなどでよく手を洗いましょう
- ・ナプキンや尿とりパッドを使用している場合は、看護師にお知らせください
 - *使用済みのナプキンや尿とりパッドは、ナイロン袋に入れて口を結びましょう
 - *トイレからナースコールを押して、看護師に渡しましょう
- ・尿や吐いてしまったもので衣類が汚れた場合は、ほかの洗濯物と分けて洗濯しましょう



ダイアリー

このパンフレットには、当院での標準的な治療や日常生活で注意していただきたいポイントなどを記載しています

また、よりよい状態で退院を迎えられるように**患者さんご自身の目標**と**医療スタッフの目標**をあげています

入院は約9日間の予定です

治療後の回復は、個人差があり、体の状態によっては予定どおりにすすまないこともあります。その都度対応していきますので、ご安心ください

私たち医療スタッフは、これからの入院生活を不安なく送れるように支援させていただきます





今日の目標

- ・治療の必要性、副作用について理解できる
- ・医療スタッフの説明が理解できる

<時間>

<予定>

11:00

入院

【入院後に以下のことを予定しています】

- ・看護師から病院内、病棟内、入院生活の説明

12:00

昼食

(テレビの病院案内も参考にしてください)

- ・検温、血圧測定、身体測定
- ・連絡先、既往歴、生活習慣などの聞き取り
- ・歯科受診
- ・血液検査、尿検査
- ・医師、薬剤師より抗がん剤治療の説明があります
- ・サインをした同意書は、看護師にお渡しください
- ・初回治療のときは、管理栄養士より病院食や食事の工夫について説明があります
- 2回目以降、味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合はお知らせください

<お薬>

18:00

夕食

- ・他の病院で処方された薬は一度お預かりします
- 医師に確認後、続けるか中止するかをお伝えします

<食事>

21:30

消灯

- ・食物アレルギーのある方は医療スタッフにお知らせください
- ・基礎疾患（糖尿病、高血圧等）がある方は治療食になる場合があります



薬剤師から治療の流れや副作用の説明があります
キイトルーダの注意点について詳しく記載された
冊子をお渡しします
治療が開始したら、毎日治療日記を記入しましょう

※2回目以降の入院の方は、治療日記を確認します
キイトルーダ治療ハンドブック P.8～P.23に記載されて
いる症状（息苦しさ、下痢、皮膚の症状など）があるとき
は、看護師にお知らせください

MEMO

気になることや症状など書き留めておきましょう

医療タッフの目標

- ・安心して治療が受けられるように支援します





今日の目標

- ・安全に治療を受けることができる
- ・治療の副作用について理解できる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定

7:30

朝食

過敏症、点滴部位の痛み・血管痛、吐き気・嘔吐、
便秘、下痢について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

12:00

昼食



膀胱炎予防のため
水分を十分に
とりましょう
(目安1日1ℓ)

※治療の予定については服薬指導の紙をご覧ください

- ・点滴は1時間程度の予定です

<午前治療の場合>

10:00頃から点滴を始めます

シャワー浴は朝(9:00頃)または、点滴終了後体調に合わせて
行いましょう

<午後治療の場合>

13:30頃から点滴を始めます

シャワー浴は午前中に行いましょう

- ・点滴中は、副作用を早期発見するために付き添ったり、頻回に訪室
します
- ・針の入っているところが赤くなった、腫れた、痛いときなどは
すぐに看護師へ知らせてください
- ・点滴のものを防ぐために看護師が身の回りのことをお手伝いします

<時間>

<予定>

治療後は、便秘傾向になります

マグミット（緩下剤）を調節しながら服用しましょう

18:00

夕食

夕食後、オランザピン錠を2錠服用します

眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前に
トイレに行きましょう

また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

19:00

検温、血圧測定

21:30

消灯



治療開始後は
フタをして水を
2回流しましょう

吐き気の強いときは追加で
薬を使うことができます
遠慮せず看護師にお伝えください



- 点滴中は、トイレなどの歩行時、転倒に注意しましょう
- 点滴台を支えにして歩くと転倒の可能性があります
支えにしないようにしましょう

医療スタッフの目標

- 副作用症状の早期発見に努めます
- 抗がん剤の血管外漏出予防に努めます





今日の目標

- ・治療の副作用について理解できる
- ・副作用症状のコントロールができる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定

治療日記を記入しましょう

7:30

朝食
朝食後、デカドロン2錠を服用します

10:00

検温、血圧測定

治療2日目：脱毛、味覚障害・食欲不振について
治療3日目：倦怠感、皮膚障害について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照
「がん治療による脱毛に備えて（頭髪編）」パンフレット参照

12:00

昼食

活動の制限はありません
シャワー浴ができます



吐き気の強いときは追加で
お薬を使うことができます
遠慮なく看護師にお伝えください



<時間>

<予定>



膀胱炎予防のため
水分を十分に
とりましょう
(目安1日1ℓ)

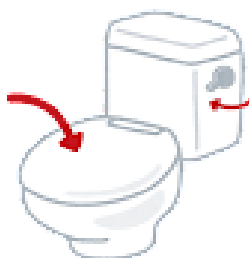
18:00

夕食
夕食後、オランザピン錠を2錠
服用します

眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前に
トイレに行きましょう
また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

19:00

検温、血圧測定



フタをして水を
2回流しましょう

21:30

消灯

便が出にくいときは
緩下剤を調節しながら
服用しましょう

針の入っているところが赤くなった、腫れた、痛いときなどは、
すぐに看護師へ知らせてください

MEMO

気になることや症状など書き留めておきましょう

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます





今日の目標

- ・日常生活の注意点について理解できる
- ・副作用症状のコントロールができる

<時間>

<予定>

6:00

起床

水分をしっかりとりましょう
治療日記を記入しましょう

7:30

朝食

朝食後、デカドロン2錠を服用します
(治療4日目まで)

10:00

検温、血圧測定

治療5日目：口内炎について説明します
治療6日目：息切れ・動悸について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

12:00

昼食

活動の制限はありません
シャワー浴ができます



便が出にくいときは
緩下剤を調節しながら
服用しましょう

通院治療室についての説明と見学を行います
「外来で抗がん剤点滴治療を受けられる方へ」ページ参照

<時間>

<予定>

18:00

夕食

夕食後、**オランザピン錠**を2錠服用します
(治療4日目まで)

眠気が強く出ることがあるので、薬を飲む前に
トイレに行きましょう
また、夜ふらつくときは看護師を呼びましょう

21:30

消灯

吐き気の強いときは追加で
お薬を使うことができます
遠慮なく看護師にお伝えください

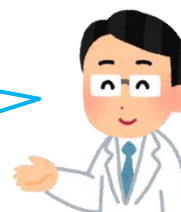


MEMO

気になることや症状など書き留めておきましょう

医療スタッフの目標

- ・ 副作用症状の早期発見に努めます





今日の目標

- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる
- ・副作用症状のコントロールができる

<時間>	<予定>	
6:00	起床	水分をしっかりととりましょう 治療日記を記入しましょう
7:30	朝食	
9:30	血液検査	便が出にくいときは 緩下剤を調節しながら 服用しましょう
10:00	検温、血圧測定	
12:00	昼食	活動の制限はありません シャワー浴ができます
		血液検査の結果と骨髄毒性について説明します 「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照 退院後の日常生活について説明をします 「退院後の日常生活について」ページ参照
18:00	夕食	
21:30	消灯	感染予防のために手洗い・うがいは しっかりとしましょう



医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます
- ・退院後の日常生活に不安や心配ごとがないように支援します





今日の目標

- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる
- ・退院できる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定

7:30

朝食

お預かりしている薬、退院の薬がある場合はお渡し
します
次回外来予約票をお渡しします

10:00

退院
退院前に忘れ物がないようにご確認ください
「入院診療費料金連絡票」を病室にお届けしますので、
2階でお支払ください

医療スタッフの目標

- ・退院後の日常生活に不安や心配ごとがないように支援します





ウィッグ 帽子 ヘア用品
ネックカバーなど



ウィッグ以外にも
お役立ち製品が色々♪ /



メイク ネイル用品

治療によって脱毛・肌や爪のトラブルが起こる可能性がある方に
上記展示品の案内や試着を行っています

お住まいの自治体によっては、治療に伴うウィッグに関する助成
制度を設けています

詳しくは本館2階『がん相談支援センター』でご相談ください

※暖だんでの販売は行っておりません

気になる製品については、購入方法をお伝えしています

外来で抗がん剤点滴治療を受けられる方へ

通院治療の流れ

①受付



B受付

②採血
中央処置室



☆採血時のお願い☆

採血時に注意することは退院前に確認しておきましょう
点滴予定の腕とは反対の腕で採血しましょう



採血結果が出るまで、
約30分～1時間かかります

A受付

呼吸器科
消化器科
緩和ケア
感染症腫瘍内科
骨軟部腫瘍・
整形外科
禁煙外来

B受付

泌尿器科
血液腫瘍内科
原発不明がん
診療科

③診察受付

④診察

治療決定

C受付

乳腺外科
婦人科
形成外科
頭頸科・甲状腺腫瘍外科
歯科
病理診断科

S受付

消化器内科
糖尿病内科
内分泌内科
循環器内科
皮膚科
眼科
精神科
脳神経外科
リンパ浮腫
がんゲノム医療外来

S受付

⑤治療
通院治療室

看護師が点滴の針を刺し、
確認後に抗がん剤を開始します

治療終了

検査や他の診療科で診察のある方は、各受付へ

検査の説明を受ける方は、予約センターへ

予約センターは
B受付の隣です

⑥会計

処方箋もすべてファイルに入れたまま総合受付 **6番窓口** に提出してください。

***お薬の処方がある方へ**

6番窓口で処方箋をお渡しします。4日以内にお薬をお受け取りください。



通院治療室での過ごし方

- 外来で初めて治療を受ける方は、説明と確認を行うため、少し時間がかかります。
- 入室時に、ベッドか椅子を選択できますが、混雑時にはご希望に添えないこともあります。
- テレビは無料で利用できます。ラジオや音楽プレイヤー等の持ち込みも可能です。ご利用される場合にはイヤホンをご用意ください。
- 携帯電話はマナーモードに設定し、通話をご遠慮ください。
- 通院治療室内での飲食は可能ですが、においの強いものはご遠慮ください。飲食される方は、各自でご準備ください。
- トイレは通院治療室内のトイレをご使用ください。男女兼用ですが、3か所あります。
- 付き添いは原則ご遠慮いただいております。ご家族の待機場所として「暖だん」や「図書コーナー」などがあります。
- 副作用や日常生活で困っていることや相談したいことがあれば、いつでもスタッフに声をおかけください。



退院後の日常生活について

●食事

特に制限はありません

バランスの良い食事を心がけましょう

食欲がないときは、無理をせず、食べやすいものを食べられるときにとるようにしましょう



白血球が減少している時期は、残り物、賞味期限切れの物を召し上がらないようにご注意ください

●お薬

医師の指示どおりに服用しましょう



* 37.5℃以上の発熱がある場合の対応について

- ・処方されている抗生物質を服用してください
- ・抗生物質は飲み始めたら、処方されている期間は飲み続けましょう
- ・ただし、飲み始めて「湿疹がでる」「下痢がひどい」など異常があれば内服をやめ、がん相談支援センターに相談しましょう

●活動

特に制限はありません

白血球が減少している期間は、風邪をひきやすかったり熱が出やすいため、外出時マスクを着用しましょう

外出や買い物は比較的人ごみの少ない朝の早い時間をお勧めします

●清潔

皮膚に付着している常在菌を減らすために、可能な限り毎日入浴やシャワー浴をし、体を清潔にしておきましょう
（ただし、発熱時やだるさが強い場合は控え、温かいタオルなどで体を拭くようにしましょう）

うがい・歯磨きをして口の中を清潔に保ちましょう
歯ぐきの傷つきを防止するため、歯ブラシは小さく毛の柔らかいものを使いましょう

●排泄

規則的な排便習慣を身につけるようにしましょう
便秘のときは処方便秘薬を調整して服用してください
処方されていないときは市販便秘薬を服用してもかまいません
（下痢になったら下剤は中止しましょう）
下痢のときは市販の整腸剤を服用してもかまいません

●治療日記

退院後も、治療日記は毎日記入しましょう
治療日記は、次回受診時にお持ちください
キイトルーダ治療ハンドブック P8～P23に記載されている
症状（息苦しさ、下痢、皮膚の症状など）があるときは、医療スタッフにお知らせください

●副作用確認シート

退院までに、「免疫チェックポイント阻害薬 副作用確認シート」をお渡しします

次回外来受診または入院時に、記入した副作用確認シートをお持ちください

記入方法は、次ページの記入例を参考にしましょう

●その他

外来受診は、必ず受けるようにしましょう

外見の変化（脱毛、爪、皮膚のくすみなど）に関して気になることがあれば、患者・家族総合支援センター「暖だん」で情報を用意していますので、お気軽にお立ち寄りください



記入例

青字は記入例です

免疫チェックポイント阻害薬 副作用確認シート



ID (診察券番号) : 123456

記入日 : 2025 年 4 月 1 日

氏名 : 四国 太郎

1. 下記の該当する症状に☑を記入してください

重症筋無力症・筋炎

- ☐ まぶたが下がってくる
- ☐ 物が二重に見える
- ☐ 筋肉痛がある

1型糖尿病

- ☐ 喉がひどく渇く ※ 1
- ☐ 尿の回数が増える

大腸炎・下痢

- ☐ 下痢が続く
- ☐ 便に血が混じる

間質性肺炎/心筋炎

- ☒ 息苦しい
- ☐ 動悸がする
- ☐ 咳が増えた
- ☐ 37.5℃以上の発熱 ※ 2

内分泌障害

- ☐ 体がだるい
- ☐ 食欲が落ちる
- ☐ 吐き気が続く

皮膚障害

- ☒ 発疹がある
- ☒ 皮膚に痒みがある

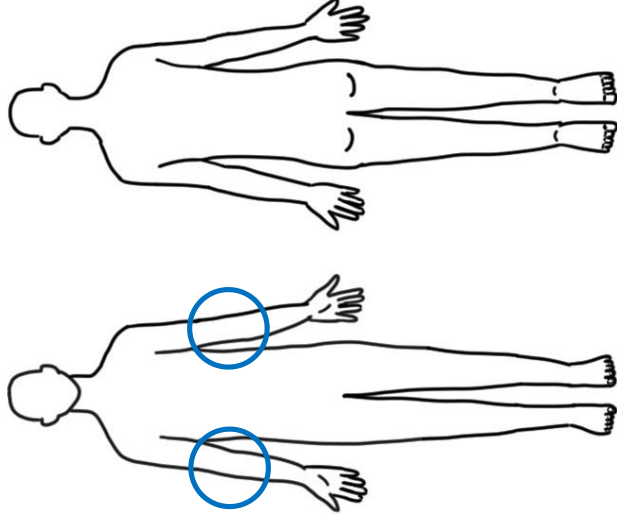
神経障害

- ☒ 手足のしびれがある
- ☐ 力の入りにくさを感じる

静脈血栓塞栓症

- ☐ 足にむくみや腫れがある

症状がある部位に
○を記入してください



正面

背面

2. 各症状について、下記の該当する状況すべてに☑をしてください
(退院後～当院受診まで/前回受診～今回受診までの体調をお答えください)

症状	グレード	0	1	2	3
対処			症状がづらい場合は、 病院に相談しましょう	症状が2-3日続く場合 速やかに病院へ 連絡しましょう	速やかに病院へ 連絡しましょう
呼吸困難 (息苦しい)	☐ ない	☐ 階段や坂道を登る際に 息切れがある	☒ ゆっくり歩行した際に息切れ はあるが、日常生活はできる	☐ 息切れのため、身の回り のことできない	
倦怠感 (体のだるさ)	☒ ない	☐ 急にだるさが出てきたが 休むと回復する	☐ 急にだるさが出てきて 持続するが日常生活はできる	☐ 急にだるさが出てきて 身の回りのこともできない	
食欲不振	☐ ない	☐ 食欲低下を感じるが 食事は変わらない	☒ 食欲低下を感じ、食事が 減った	☐ ほとんど食べられない	
嘔吐	☒ ない	☐ 1日1-2回吐く	☐ 1日3-5回吐く	☐ 1日6回以上吐く	
下痢	☒ ない	☐ 普段と比べて、1日1-3回 下痢が増えた	☐ 普段と比べて、1日4-6回 下痢が増えた	☐ 普段と比べて、1日7回 以上、下痢が増えた	
筋力低下 (力が入りにくい) (部位：)	☐ ない	☐ 明らかな筋力低下はないが 力の入りにくさを感じる	☒ 明らかな筋力低下はあるが 日常生活はできる	☐ 明らかな筋力低下のため 身の回りのこともできない	
※ ¹ 喉がひどく渴く	喉がひどく渴く状態が2日続く場合、速やかに病院へ連絡しましょう				
※ ² 発熱 (38.0℃以上)	38.0℃以上の発熱が2日続く場合、速やかに病院へ連絡しましょう				
その他の症状 (気になること等)	時々頭が痛い めまいがする				

次回入院で治療する場合は、病棟看護師または薬剤師にお渡しください
次回外来で治療する場合は、各診療科の受付にお渡しください



- 抗生物質を飲みきっても37.5℃以上の発熱が続くとき
- 吐き気、嘔吐があり、食事や水分がほとんどとれないとき
- 整腸剤を服用しても水のような下痢が続くとき
- 体を起こすことが辛いほどの強いだるさが何日も続くとき
- キイトルーダ治療ハンドブックP22、P23
「キイトルーダの副作用として予測される症状」に記載されている症状で、生活に支障を来すようなひどい症状があるとき

上記のような症状がある場合やその他ご心配なことがある場合は、
がん相談支援センターにご連絡ください

◆四国がんセンターの連絡先◆

【平日】 8:30~17:15
四国がんセンター がん相談支援センター
(直通番号) 089-999-1114

【平日上記時間外および土・日・祝日】
日直/夜間当直師長
(代表番号) 089-999-1111

翌日以降の外来受診日や検査予約日の変更
【平日】 13:00~17:00
四国がんセンター 予約センター
(直通番号) 089-999-1112

